

東北農業経済学会 Newsletter ◆ 2015 秋号

役員会・総会報告

◇◇ 記事一覧 ◇◇

第51回 新潟大会報告	1
役員会・総会報告	1
会誌バックナンバーの頒布	2
ご寄附へのお礼	2
2014/15年度学会賞	2
受賞者のことば	3
投稿をお待ちしております	3
会員のよこがお	4

第51回 新潟大会報告

2015年8月28日、29日に、新潟大学農学部を会場として、第51回大会（新潟大会）が開催されました。

1日目の大会シンポジウムは「研究者は地域農業に何ができるかー東北農業経済学会の存在意義ー」を共通論題として、会員である研究者に加え、行政や現場からの報告やコメントを頂き、活発な議論と意見交換が行われました。報告者6名にコメンテーター2名を加え多様な論点が提示され、それを座長の津田・小沢両氏に達人の腕で捌いて頂きました。「なぜ他分野と異なり農経・社系研究者には地域から声がかかるのか」に始まり、「(歴史を踏まえた中長期視点からの) 後ろ向き研究が大事」「時として国や行政の方向性とは違う視点・批判的検討もありがたい」「山形県などで取り組んできたセンサスの中間年における農業構造実態調査等の組織的取り組みの可能性」等幅広い意見が交わされました。シンポジウム後に大学生協で開催された懇親会では、“新潟の酒”で大いに盛り上がりました。

2日目には個別報告が行われ、4会場で26件の発表が行われ、年代を問わず、活発な議論や意見交換がなされました。

両日ともに多くの参加があり、盛会のうちに大会を終えることができました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。なお、今大会は新潟県からのご後援を賜りました。記して感謝申し上げます。

新潟大会実行委員長 清野誠喜

新潟大会の開催に併せて2015年8月27日に役員会が、翌8月22日に総会がそれぞれ開催されました。主な内容は次の通りです。

1. 2014/15年度の活動について

(1) 会員数の動向

2015年7月31日現在 個人会員 217名
(うち一般会員 200名、学生会員 17名)
団体会員 3団体

(2) 2014/15年度 事業報告

2014年

- 9月 農村経済研究 第32巻第2号(論文特集号)発行
- 11月 東北農業経済学会50周年記念事業「東北農業・農村研究の論点を探るー未来に向けてー」開催(フォレスト仙台、15日)

2015年

- 1月 ニュースレター2014年秋号発行
- 3月 2014/15年度 第1回常務理事会開催(仙台市、25日)
- 5月 ニュースレター2015年春号発行
- 5月 2014/15年度 学会賞候補者募集
2015/16年度 研究助成募集
- 7月 2014/15年度 第2回常務理事会開催(仙台市、31日)
- 8月 第51回 新潟大会開催(新潟市、28-29日)

2. 2014/15年度学会賞の選考について

次ページの記事をご覧ください。

3. 2015/16年度研究助成対象者選考結果について

以下のとおり承認されました。

助成対象者：上田賢悦 氏

秋田県農業試験場(新潟大学大学院)

テーマ：「JAの営業活動における人材育成に関する研究ー青果物および農産加工品を対象としたモデル構築ー」

助成金額：10万円

4. 名誉会員への推挙について

前学会長の青柳斉会員を名誉会員に推挙することが承認されました。

5. 2015/16 年度事業計画について

以下の内容で承認されました。

- ・ 会誌発行
- ・ 農村経済研究 第 33 巻第 1 号 (論文特集号)、第 2 号 (大会特集号)、第 3 号 (50 周年記念特集号)
- ・ 第 34 巻第 1 号 (大会特集号)、2 号 (論文特集号)
- ・ 会員名簿作成・配布
- ・ 青森大会プレ・シンポジウム (企画担当副会長と青森県選出理事と相談の上、必要に応じて開催)
- ・ 第 52 回青森大会開催
- ・ ニュースレター発行
- ・ 常務理事会開催 (2 回)

6. その他

- ・ 2015/16 年度大会 (2016 年夏) は青森県で開催されることが承認されました。
- ・ 会誌バックナンバーを各号 5 部残して廃棄することが承認されました。なお廃棄にあたり希望者には頒布します。詳しくは下記記事をごらんください。
- ・ 開催県の実行委員会と学会事務局や常務理事会との連携を強化するため、事業年度が切り替わった段階で、当該年度開催県の選出理事の中から 1 名に開催県担当として常務理事会に加わることが承認されました。

会誌バックナンバーの頒布

2015 年新潟大会の総会にて、会誌バックナンバーの整理に伴う会誌の頒布が提案・承認されました。これにより、希望する会員には無償でバックナンバーを着払いにて送付することとなりました。バックナンバーの表紙 PDF は学会ウェブサイトにて確認できますので、希望する会員は送付を希望する巻・号と宛先を事務局までご連絡くださるようお願い致します。

ご寄附へのお礼

このたび神田建築名誉会員および青柳 斉名誉会員より、本学会あてに寄附金を賜りました。ご報告させていただきますとともに、厚く御礼申し上げます。

2014/15 年度学会賞

選考結果と受賞理由

2014/15 年度東北農業経済学会賞 (木下賞) は、奨励賞に小松知未会員 (福島大学)、学会誌賞に鶴川洋樹会

員・李侖美会員・園部文菜会員 (秋田県立大学) および土居邦弘会員 (国際農林水産業研究センター) に決定しました。残念ながら学術賞および実践賞は該当者はありませんでした。

受賞理由は以下のとおりです。新潟大会にて開催された総会において表彰式が行われました。

(1) 奨励賞

◆受賞者：小松知未 (福島大学)

◆受賞対象：「原子力災害被災地域における調査研究と研究成果を通じた現地支援に関する一連の研究」

◆受賞理由：東京電力福島第一原子力発電所事故による福島県農業への影響及び行政や地域、生産者の対応について調査・分析を行い、実態や課題を詳細に明らかにしている。特に、農地の除染、農産物検査体制や生産者等の自主的な取り組み、果樹経営への影響に関して、問題の所在と必要な対応策を具体的に示している。さらに、研究活動に止まらず、多くの講演活動や支援活動も行い、実践的に農業の復興に携わっている。放射性物質による汚染からの農業復興に向けて、まだ、大きな課題を有する地域もあり、候補者の先駆的な研究業績、実践的な取組が大きく貢献することが期待される。候補者の研究については、展開途上にあり、今後さらなる研究の蓄積と成果の公表が待たれる部分もあるが、将来の発展が期待される会員の研究業績として、奨励賞受賞に相応しいものである。

(2) 学会誌賞

◆受賞者：鶴川洋樹・李侖美・園部文菜 (秋田県立大学)

◆受賞論文：飼料用米の作付変動要因と定着条件 (第 32 巻第 1 号)

◆受賞理由：本論文は飼料用米の急速な作付拡大から急激な作付減少、とりわけ減少局面に焦点を当て、作付継続農家と非継続農家の聞き取り調査から減少の要因を明らかにしたものである。転作米部門の収益性に敏感に反応する多数の経営によって飼料用米から加工用米への転換が進んだが、大規模経営や比内地鶏との複合経営では経営全体の経済性を考慮して飼料用米の生産が継続されていた。この結果、飼料用米の広範な定着のためには価格上昇が必要であり、飼料用米の流通費用の削減や畜産物のブランド化が求められることを明らかにし、さらに地域農業において耕畜連携や資源循環の発展の可能性を高めるために飼料用米定着の重要性を指摘した優れた論文と評価した。

◆受賞者：土居邦弘 (国際農林水産業研究センター)

◆受賞論文：東日本大震災における政府食料調達のプロセスの分析—食料及び輸送手段調達の遅れの発生について— (第 32 巻第 2 号)

◆受賞理由：本論文は東日本大震災における食料・輸送

の調達及び調整状況を分析し、事前準備の有効性の検証と未着・到着遅延の背景になる課題を明らかにしたものである。事前準備によって餓死者を出すようなことはなかったが、協力企業が準備段階と異なっていたことからこれらの企業も協力の調査対象とすること、輸送関係企業と自衛隊の輸送における役割を検証すること、荷姿や車両の形式などについて事前調整を行っておくことを指摘した優れた論文と評価した。

受賞者のことば

◆奨励賞

この度は名誉ある東北農業経済学会木下賞（奨励賞）を賜り、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。2011年10月に福島大学つくしまふくしま未来支援センターに着任してから現在まで、原子力災害からの農業復興に関する支援・研究を行ってきました。これまでの研究成果は、復興に向けて取り組む住民組織や農業経営者グループとの共同研究によるものです。この度の受賞により、研究成果（著作・論文）と研究者による実践活動をあわせて評価していただけたこと、大きな励みとなりました。原子力災害が農業経営・農産物流通・農村生活に与えた影響は計り知れませんが、実態解明・構造分析なくして復興支援策の提案・制度設計は成し得ないものと思います。これからも精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

小松知未（福島大学）

◆学会誌賞

このたびは東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）を賜り、大変光栄に思いますとともに、関係各位に厚く感謝いたします。受賞論文は卒業研究のデータを取りまとめたもので、2年前の秋に学生と現地調査に出かけたことが思い出されます。大学の先輩教員から、「大学では教育と研究は車の両輪」と教わりましたが、しばらく実践できずにいました。私は大学で仕事をしようになり7年目になりますが、今回の論文が「両輪」の端緒になればと考えています。2015年は「飼料用米ブーム」の年になりましたが、ブームが去った後でも飼料用米が定着することを目指して研究を進めています。今年の卒業研究でも飼料用米をテーマに2名の学生が耕種と畜産の視点から取り組んでいます。飼料用米にとって、「生産調整＝助成金」と「濃厚飼料＝自給率向上」は車の両輪です。今年の卒業研究も論文として公表できる機会がくるよう努めていきたいと考えています。

鵜川洋樹・李 侖美・園部文菜（秋田県立大学）

このたびは東北農業経済学会木下賞（学会誌賞）受賞の栄誉を賜りありがとうございます。関係者の皆様、特につたない小生の論文を根気よく読みご指導を賜りました、査読者そして編集部局の皆様に心よりお礼を申し上げます。東日本大震災の時、それまで非常時対策を検討していた小生は、いつの間にか農林水産省の食料支援窓口となり、40日間に及ぶ政府調達の指揮を執りました。その経験をどこかに残し、後事を託そうと考えておりましたところ、当学会への入会を同僚に勧められ、業務の合間にまとめてまいりました投稿が評価いただいたことは望外の喜びです。このことは、今後もしっかり研究を続けていくようにとの期待であると心し、社会に役立つ内容を報告できればと考えております。昨年10月、小生は、千葉大学園芸学部大学院に入学し、研究者としての修業もしてまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

土居邦弘（国際農林水産業研究センター）

投稿をお待ちしております

編集委員会では、多くの会員の皆さんからの論文投稿をお待ちしています。原稿は和文・英文どちらでも結構です。分量は和文で最大22,000字（印刷頁数で12頁）が目安です。詳細については学会ホームページの「会則・規程」の『農村経済研究』投稿規程をご覧ください。なお投稿規定は2014年8月21日より改訂されておりますのでご留意下さい。投稿先、問い合わせ先は以下の通りです。

東北農業経済学会『農村経済研究』
編集担当理事 角田 毅 あて
山形大学農学部食料生命環境学科
食農環境マネジメント学コース
〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23
TEL・FAX:0235-28-2885
E-mail:sumita@tr.yamagata-u.ac.jp

編集後記

◆新コーナーを立ち上げました（次ページ）。これまでニュースレターを編集してきましたが、なんとなく無機質だなと感じていました。もう少し会員の方々の人間的な部分を紹介する場があって良いのではないかと思い、企画させていただきました。今後、会員の皆様の仕事道具やある種「職業病」のようなものをお伝えしていきたいと思います。◇次号2014年春号は5月ごろの発行予定です。（N）

新コーナー！

■ ■ 会員のよこがお ■ ■



石塚哉史さん

いしづか さとし

弘前大学農学生命科学部准教授

栃木県塩谷郡高根沢町生まれ。東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了。社団法人食品流通システム協会調査員、財団法人日本こんにやく協会事務局長を経て、2009年より現職。2013/14木下賞（奨励賞）受賞。

このコーナーでは、研究から一歩離れて、会員のひとりにアプローチしてみたいと思います。それを通じて、会員同士の距離が縮まればいいなと思っています。さて、記念すべき第1回は、2013/14木下賞（奨励賞）を受賞された石塚哉史さんに登場していただきます。

——このたびは学会賞受賞おめでとうございます。さっそくですが、石塚さんがお仕事をされる際に、こだわっている仕事道具、あるいはお気に入りの仕事道具は何でしょうか？

学会員の皆さんとあまりかわらないかもしれませんが、私の調査時の必需品は、①タブレット（Microsoft surface）、②ルーター（b-mobile）、③デジカメ、④クリップボードの4点です（右下写真）。

——ノート、筆記用具以外にですよね？

①と②を持参するようになってから、移動中はメールチェックやネットを見るようになり、文献を読む時間が少なくなりつつことを猛省する日々です。

——便利ですもんね。どこでもメールがチェックできるようになったこと分、即レスが求められるようになって窮屈に思うこともありますけど……。ところで、④ですが、石塚さんのはあまり見かけない素材ですね。何やら高級そうな・・・。

④は、中国、台湾での市場調査の際、ヒアリングメモを書きやすい状況でない場所の際には有り難いですね。弘前大学着任後、愛用したのが旧くなったので、今夏から本革のものに新調しました。

——やっぱり本革ですか。たしかに、圃場やハウスでの調査でメモ取りに苦労した経験はあります。クリップボードがあると便利ですよ。とはいっても私ののはプラスチック製ですが（笑）。

ところで、石塚さんは研究内容的に出張が多いよう

に聞いてますが、そのことによる職業病のようなものは何かありますか？

そうですねえ。実はお城が好きなので、出張先に城跡があれば、必ず参観します。ただし、食品企業があると、どうしても視線がそちらに向かってしまいます。

——城跡ですか。意外ですね。「ちよいワル」の風貌からは想像できませんでした（笑）。ところで、食にもうるさいと、ある情報筋からうかがいましたが・・・。

わかります？いや、実は出張時に夕食の場所を決めるとき、ホテルのフロント、タクシーの運転手、調査相手の3者から評判の良い店をいくつか聞いて、2者から提案された店へ行くと外れの店が少ないことが経験上多かったので、院生時代から続けています。

——少しでも高い確実性を求めてるんですね！

疑い深い性格ではないのですが、折角の機会にどうしても美味しいものを食べようとするところになってしまいますね。

——そうですね。どうせなら美味しいものを食べたいですよ。本業だけでなく、食事についても入念な調査を行っているということですね。食ベログやぐるなびに安易に頼ってしまう自分が恥ずかしいです。今日はどうもありがとうございました。

■主な業績

石塚哉史・神代英昭編（2013）『わが国における農産物輸出戦略の現段階と展望』筑波書房。

石塚哉史（2012）「八幡平市における切花輸出の現段階と課題に関する一考察-安代りんどうの事例を中心に-」『農村経済研究』第30巻第2号。ほか



（聞き手 秋田県立大学 中村勝則）